

幼児期の 学びの芽生え

体を動かして遊ぶ楽しさを味わう 姿を通して

3歳児 6月

ねらい

イメージをもって遊ぶ中で、体を動かす遊びを取り入れ、より遊びが楽しくなったり、体を動かす心地よさを感じたりする。

発達・教師の援助 環境構成のポイント

主体的に身近な環境に関わり、繰り返し体を動かすことを楽しむという3歳児の発達を捉え、イメージをもって何かになりきり、体を動かして遊ぶことで、様々な動きが引き出されるような環境を整える。

実践内容

海にジャンプ! (3歳児)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

保育室にある大型積み木で子どもたちが船をつくった。船をきっかけに海のイメージが沸いてきて、船に乗って冒険をしたり、画用紙でつくった望遠鏡で遠くのサメを探したり、島に渡る橋を渡ったりするようになった。



船に乗って
出発

引き出される体の動き

船の上を歩く、別の積み木に跳び移る、登る
教師の意図や願い

もっとダイナミックに体を動かして遊んでほしい!

豊かな感性と表現

海のイメージがしやすい青いマットを敷いて遊びの環境を再構成

「じゃあ橋の上から海に飛び込んでみる?」と、海のイメージの青色のマットを敷いた。

ちょっと怖い
けど、そーっと
跳んで…。

自立心



健康な心と体



マットがある
と安心! やった!
跳べた!

バツシャーン!
ブクブクブク…。

海に見立てて泳ぐ
などの新しい動き
腹ばいになる・両
手を動かす・足を
動かすなど



思考力の芽生え



(保育者)
手を挙げて、
かっこいいポーズ
だね!

教師の認め
の援助により
新しい動きが
引き出され
次々と子
ども同士
が真似て
伝わって
いく

ジャンプを繰り返して動きが洗練

様々な跳び方でバリエーションが増えていった。

保育を振り返って 1年生につながるもの:体を動かす意欲、心地よさ、様々な体の動きと仲間の存在

船や海というイメージをもって遊ぶことで、楽しみながら体を動かして遊ぶことにつながった。また、マットという新たな環境により、安心して繰り返して跳び、体を動かす楽しさを感じていた。さらに、様々な体の動きを教師が認め、その動きを別の子どもが真似することで、動きのバリエーションが増えていった。

幼児期はイメージをもって、なりきって遊ぶことが思わず体を動かしたくなる原動力となる。4歳児、5歳児と発達するにつれ、心を動かす意欲の源に難しいことへの挑戦やチームの競い合いなども加わり、体を動かす遊びが多様になる。体の動きのバリエーションが豊富になり、動きが洗練されていく。幼児期は「心が動き、体が動いて成長する」発達の時期である。